

令和7年2月18日
「道迷い事例を通して」
～理想と現実 これからの支援をみんなで考えよう～

認知症の人の 道迷いと その支援について

認知症ケア上級専門士
國部 睦



「道迷い」とは

「認知症の人の道迷い」とは

- 従来の「徘徊」とイコールではない
- 行動・心理症状における「徘徊と周回」
 - ◆ 徘徊：ex.夕暮れ時症候群
 - ◆ 周回：ex.常同行動
- なんらかの目的をもって外出し、記憶障がいや失見当識、判断力低下などにより、自己帰宅が困難となった状態
- 道に迷うこと自体より、安全にひとりで帰宅できないことが問題

支援の過程

道迷いの把握

いつ、どこで、どのように、不在判断

搜索

情報収集、情報共有、協力依頼

発見・保護

報告受理、状況確認、情報共有

帰宅支援

自宅までの移動手段、帰宅時のケア

再発予防

再アセスメント、環境整備、社会資源利用

「道迷い」の支援

認知症のアセスメント

認知症疾患

- アルツハイマー型、レビー小体型、血管性

認知機能障がい

- 記憶障がい、失見当識、実行機能障がい

生活障がい

- 家事の障がい、金銭管理の障がい

身体合併症

- 高血圧、脂質異常症、心疾患

行動・心理症状

- 抑うつ、易怒性、不眠、暴力、アパシー

社会的状況

- 地域トラブル、ごみ堆積、身寄りのない独居

認知機能障がいと B P S D

認知機能障がい

- 脳におこった病気そのものによって直接みられる、記憶、理解、判断力などの低下や言語障がいなどの症状。

行動・心理症状（B P S D）

- 認知症の人に現れる症状のうち、不眠、焦燥感などの行動や心理状態に関するものを言い、周囲の環境などの影響を受けていること、本人が困っている状況の場合が多く、「認知症の人の S O S」とも言われている。
- 適切な治療やケアによって改善できる可能性がある。
- 道迷いは B P S D の一つ。

適切な治療やケア

- **本人の訴えを傾聴し、状態をよく観察する**
 - 外出のきっかけや本人の本来の目的など確認し、ケアの糸口とする。
- **幻視・錯視・幻覚・幻聴への理解**
 - 本人にとっては現実。受けとめ、具体的な内容を確認し、対処可能なものに対応する。
- **抑うつ、不安、焦燥などへの対応**
 - 投薬調整や、不安の原因を探り、安心できる環境を整備する。
- **不眠、昼夜逆転への対応**
 - 入眠しやすくなるようデイサービス利用など、日中の活動量を増やす。

環境の変化

- **転居、リフォーム、入所、入居**
 - リロケーションダメージにより混乱が生じやすい。新しい環境に少しずつ慣れていくように配慮する。
- **介護者の急な不在（入院、入所、死去など）**
 - 介護者探しなどの行動症状が生じやすく、本人が状況を受け止めるまで時間を要することも多い。要連携。
- **ルーティンの変更**
 - 退職後や行きつけの店の閉店など、変化に対応しきれないことも多い。新しい場所や目的への移行を支援する。

身体的な要因

- **慢性的な痛みや不快感**

- 症状を改善しようと繰り返し外出することがあるが、改善することで落ち着きやすい。

- **視力や聴力の低下**

- 誤認が起きやすく、事故にも遭いやすくなる。矯正調整。

- **過食や食生活の乱れ**

- 頻繁または不規則な時間に食事を求め、夜間外出に繋がりがやすい。独居や介護者が対応困難である場合、生活支援だけでは対応が難しいことがある。生活リズムがつくまでショートステイ利用なども。

社会資源利用

認知症高齢者等見守りネットワーク事業

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushi/page/0000581171.html>

- 見守り登録制度
- 見守りシール・アイロンシール
- 見守りメール配信
- 認知症高齢者位置情報探索事業（GPS貸与）

認知症高齢者緊急ショートステイ事業

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushi/page/0000324189.html>

社会資源利用

成年後見制度

- 任意後見・後見・保佐・補助 それぞれの役割
- 市民後見人
- 大阪市成年後見支援センター

<https://osaka-kouken.com/>

高齢者等終身サポート事業者

- 高齢者等終身サポート事業者ガイドライン

<https://www.mhlw.go.jp/content/001262636.pdf>

これからの認知症支援

認知症基本法と基本計画

- **共生社会の実現を推進するための認知症基本法**

- 令和6年1月施行
- 認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会「共生社会」の実現を推進する。

- **認知症基本計画**

- 令和6年12月閣議決定
- 「新しい認知症観」とは、認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方である。

「新しい認知症観」による支援

認知症の人の希望を叶えるヘルプカード

https://www.dcnet.gr.jp/support/research/center/detail_391_center_1.php

現在位置や身元のわかるものを「持たせる」



自らの希望を叶えるためのツールを「持つ」

ちーむオレンジサポーター

認知症の人は「支援される人」



認知症の人は「一緒に活動する人」



自分が行きたいところに、安心して、一人でスムーズ出かけるために、自分が使うカードです。

カードには周りの人にちょっとわかってほしいことや、頼みたいことを書いておけるフリースペースがあります。

外に出かける時に持ち歩き、必要な時に周りの人にカードを見せると、頼みたいことが一目で伝わります。

カードのひな形があります。

自分に役立ちそうなひな形を参考にあなたも自分にあったヘルプカードをつくってみませんか？

詳しくは裏面を

希望をかなえる ヘルプカード®



**持って安心！
使って便利！**

**自分のカードを持って
行きたいところへ、
自由に出かけよう！**

自分にあった持ち方の工夫をしよう
～持ちやすく・出しやすく～

名刺入れや財布
に入れる



ネームホルダー
に入れる

ケースに入れて
カバンやベルトに
つける



お薬手帳や
障害者手帳に
はさんでおく

ちーむオレンジサポーター

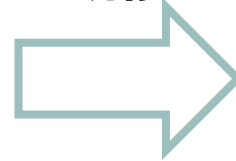
「ちーむオレンジサポーター」とは、認知症の人やその家族を中心に、地域の人や支援者などが「オレンジサポーター」となって共に支える取組を行うボランティアチーム。

認知症サポーターがステップアップ研修を受講することでオレンジサポーターとなる。

認知症サポーター



ステップ
アップ
研修



オレンジサポーター



最後に

- 道迷い後の事後対応より道迷いが起きにくいケアを
- 進行性の認知症疾患は先を見越した対応が大切
- 初めて道迷いが発生した時の対応は重要
- 本人や家族に予防や対策の必要性を伝える
- 道迷いに限らず、緊急対応の家族支援が期待できないケースは、ケアマネだけで抱え込まない
- 地域との連携こそ関係機関に協力依頼を